

四月

四月の重要記事 四月十一日 三菱書道會

四月一日 (月) 曇 暖 特別記事 興亜奉公日

受信 一通 家の姉さんより

一大傑作 ちばニュースだ 七時十分前だろうと云ふ僕の時計は未だ六時半にならない急いで起きて飯を食べて大あわて方であるすると、新聞が来てラジオ欄を見ると六時よりラジオ体操に改正した、後で大笑してゆっくり出かけました。五十五分着く。

午前中 何もする事なくぶらりとしてゐる。午後より鶴田さんより仕事の分担を定む 僕は物品購入帳と買入先補助帳簿をもつ事になりました。

請求書の整理をなす外 30日分の請求書を計算し帳簿に記入する、五時四十分退社、家に六時半帰ると平太郎さん御夫婦と子供(女)さんが御出になってゐる、今日午後水道が断水したので大困りでした。飯を食べ八時頃お帰りになる。後又、火箱をかこんで話して九時床につく

欄外の記事

山明りして春暁の古障子(原田濱人)

親鸞上人生(承安3) 大阪市大拡張(大正14) 神風号命名式(昭和12)

四月二日 (火) 曇 暖

起床六時半 朝食なし七時 家を出る二十分駅につき鶴見行に乗り 八時五分前社に着く、午前中は請求書を見に出た人々に見せたり、又、不服のある者に対しては談話をなしたりする。午後、請求書を調べて計算して記帳す、領収書の処理をなす、残業七時迄なし位置を変更即ち座席を改へる、八時近く家に帰る、帰る途中に雨が降る霧雨だ気持ちよい濡れて行かふだ、夕食をなして新聞又話をしたりして九時床に就く、

天気の良い日は不愉快だ

今日も断水があった由

欄外の記事

これはさて入学の子の大頭(誓子)

童話作家アンデルセン生(1805) 仏小説家ゾラ生(1840)

四月三日 (水) 神武天皇祭 曇 暖

発信：二通 家へ(訃報) 手代木 賢二様

朝から曇りがちな天気、雨が降ったり止んだりの天気であった、なんだかむさされる様な暖かさを感ずるのである、十時頃には空も晴れてきてなま暖い風が吹く天候でなにかのきざしの様であった。午前中、お母さんの荷物が来たので手伝ってほどいてやり、かだづけました。残りの方は午後、政ちゃんが帰って来てから行ふ事になりました。昼食後、十二時半に下宿のお母さんと山王映画劇場に白菊の歌大會を見て三時半頃終り外は雨が降って居ました。雨の中をとんで帰りました。途中下駄をわってしまひました。それから風呂に行きました。夕方からものすごい風雨となりました。今にも家が吹き飛ばされそうに家はゆれるし、停電はするし、一晩中眠れなかった、

欄外の記事

休息をねがわば先づ働け（仏国俚諺）

聖徳太子法十七條を定む（推古帝 12）台兒莊陥落（昭和 13）

四月 四日 （木） 晴 暖

発信：一通 家へ

昨日の嵐はどこを吹くと言った様なくつきりと晴れた空になんと気持ちのよい朝だろうしかし昨夜からの嵐を考えるとぞっとします。

一度は余りひどかったので思わず布団をかぶってしまひました、七時五分家を出る、會社に五十分に着く 午前中から午後にかけて請求書の処理残業七時迄、八時家にかへる、深川の方の家に行つて居られた静子さんかへつてこられる、政兄さんも私しより遅くかへつてこられた。一緒に御飯を食べて後、ラジオがこはれたので おろして見たが真空管がこはれた

午後九時五十分床に就く

風の音を聞くとどうも気分が悪いよ

欄外の記事

静なる一瞬なりき砲声止み突撃に移る五分間ほど（小田吉三郎）

藤原時平没（延喜 9）北条時宗没（弘安 7）沖縄県を置く（明治 13）

四月五日 （金） 曇 暖

受信：二通 家より 手代木賢二様

起床 六時半、風から雲つてみて雨が降るかとも思われる天候であった、傘を持たず出る仕事は何時もの通り、

請求書の処理、残業七時迄

お昼頃より降りだした雨を止まず帰る時もどンドン降って居ったは止んで電車に乗り漸く大森駅まで来る事が出来たが幸ひにも愛子さんが迎ひに来てくれて傘をさして濡れずに家に帰る事が出来た。政兄さんは迎いに行ったのとすれ違いになって私より早く帰ってこられた濡れた家で 夕食をなし、皆んなとお話をして九時すぎ床に就く

欄外の記事

名刀展春の灯となり水の如し（淋冠人）

満州国皇帝各軍団に軍旗を親授さる（昭和9）

四月六日（土） 晴後雲 寒

受信：小包 二ツ

何時もの通り、

請求書の処理、

残業なし 十四日会社ハイキング 施行の予定 参加する事を約す 会費 六十銭

六時 家に帰ると 小包二個 家から来た、中実は 毛猿又 二足 人絹猿又 二足、靴下 二足 下駄 花紙 三十丈 メンソレータム 二ツ 栗一袋

資生堂薬局よりわかもと一、ノーシン 一 買ふ、爪切一ツ 合計金二円十銭

ラジオを聞いて寝る

二時半から三時にかけて雨が降った。

欄外の記事

春の灯の消されしところより更くる（草城）

画家ラファエル没（1520）尾形光琳没（享保元）神風号飛ぶ（昭和12）

四月七日（日） 晴 晴

発信：一通 家に

起床八時、ラジオ体操を行ふ、二階で朝食をして、九時半 政兄さんと遊びに出る、先づ大井で降りて政兄さんの友人の家に寄った。十一時そこを出て有楽町迄行き日劇を見よう 思って行くも満員の為中止それから銀座に出てデパートの愛馬展覧会を見る

地下鉄にて浅草に行く、浅草の活動街も皆満員なのでやめ、須田町食堂に昼食をなし、そこらをぶらついて二時 本所深川の大きい兄さんの家につくそこで休み、三時半家を出て市電にて東京駅に行く、途中愛馬行進を見る、大森にかえってくる大森の町をぶらつき四時四十分家に帰る、夕食をなし、風呂に入ってラジオを聞いてネる 十時なり

欄外の記事

花ひらき夕べながく子と書を読みぬ（地蔵尊）
法然上人生（長承 2）英詩人ワーズワース生（1770）

四月八日 月 晴 暖
受信：一通 渡辺兼雄様

何時もと同じ 七時五十四分、会社に着く、
午前中 購入帳の締切及振替、仕訳日記帳を課長の印をもらう為もって行くも日付をつけ
なかった為かへされる、それから出す、午後、買入先をおとす
残業七時迄、八時 家に帰る
夕食をなしてラジオを聞いて十時寝る
朝は非常に晴れた気持ちのよい朝であった、午後より 風が出てくる 夕方から激しくな
って来た
なま暖い風が吹いてくる

会社の仕事に対しては

- 一、 确实を第一と心掛ける
- 一、 丁寧は何事も行ふ
- 一、 意志強固なそして生氣のある愉快な者になれ

欄外の記事

前車のくつがえへるは後車の戒（史記）
太田道灌江戸城を築く（長禄元）借家借地法公布（大正 10）

四月九日 （火） 晴 暖
発信：一通 渡辺兼雄君

朝 六時半起床 八時十五分前に社に着く 仕事は 一日中 買入先人名帳の締切、残高
決算を行った、残業七時迄
八時家に帰る 夕食をすませて色々話などして九時床に就く
一日 晴れたよい天気であった、風はすこしか吹かない昼休みに海に遊びに行く 海と行
っても砂地でない埋立地なのでセメンでどてになってゐる
遠く百米前方には貨物船が見える
人扇島もあるぼんぼん蒸気が通って行く
夕食のおかずはひらめとさすまあげの煮付もの

たくあんとのりの缶詰であった、
會社の昼めしてんぷらを飯の上にあげたものたくあんニ切

欄外の記事

しるしなき物を思はずは一杯の濁れる酒を飲むべくあるらし（大伴旅人）
藤原家隆没（嘉禎 3）英哲学者ベーコン没（1626）神風号世界記録樹立（昭和 12）

四月十日（水） 晴 暖

晴れた空に爆音勇ましく飛んで行くエヤーブレン ラジオ体操と共に起きる、七時五分家
を出る、駅に十五分につく、社に四十五分頃ついた
昨日の続き締切をなす 請求書の授受、購入帳へ記帳、計帳簿の計算、決算諸類、残業を
せず早く六時十五分に家につく
夕食をなし新聞を読み色々とお御話等する政兄さん八時帰る
二階に上がって本を読む 九時床につく
本校校長大阪市扇町商業へ御栄転される、
十二日午後六時より鶴見倶楽部にて新入社の方に対し歓迎会を行ふ由、

欄外の記事

やや風の夕陽の櫻見栄えけり（句仏）
陸軍十五機野徳空襲の帰途敵三十機と遭遇廿四機を撃墜（昭和 13）

四月十一日（木） 晴 暖

特別記事

十四日 ハイキング行ふ 会費 六十銭 支払ふ

何時もの通り 八時四十九分、十五分に社に着く 請求書の処理 決算諸類作成（買入先）
金子さん休暇 鶴田さん出張で午後に帰る、岡崎さんは十時頃出張され五時帰る、板倉さ
んは明日より休む由、終わって食堂にて書道練習を初める事となったので、先生のお話及
課長の挨拶あり、六時半終る、突然臨港不通の声上る 自動車と衝突した由、夜弁天橋ま
で歩く途中井上さん安藤さんに會ふ、弁天橋にて乗り八時二十分家に帰る、夕食をなし時
静子姉さんが省線電車中で市橋さんに會った由浦和に居る由、風呂に行く 十時床に就く、

欄外の記事

義は利の和なり（周易）
昭和皇太后崩御（大正 3）

四月十二日 (金) 晴 暖

時計を見ると、六時五十分、すは大変だと大あわてして便所にも行かず朝食をして七時七分出る、鶴見駅から臨港へ行くと未だ不通の声、大困乱を呈してゐる様、浅野にて乗変へとの話であったのでとにかく、扇町行の電車に乗って行くも浅野にて乗変へなしで武者白石まで行くそして日清行に乗変へて七時五十六分に社に着く、一日中買入先の整理十四日に支払いの為、五時終って直に花の茶屋（一名倶楽部）に行く、一番乗りであった。六時半より始める新入社員歓迎會、すしとビール等出るビール一杯やっとのむ、自己紹介などする 會津磐梯山盆踊歌を行ふ、非常に愉快だった 十時家に帰る 九時半頃終った
十時半 ネル

欄外の記事

櫻咲くこの春の日に弟に動員令は遂に下れり（渡辺春子）

武田信玄没（天正元）住宅組合法公布（大正十）劇作家瀬戸英一没（昭和9）

四月十三日 (土) 曇晴

六時半 起る、何時もの通り

買入先 a/2 整理 漸く出来る

出納の方 五十円 不足 残業 七時迄

朝から曇ってゐた どうも今日は日が悪い、

あゝ 不愉快だ

明日出勤する様 鶴田さんに言はれる

ハイキング 不参加

八時十分 家に着く 夕食をして 新聞を見て二階に上り 皆んなとお話して十時床に就く

要は確實でしい事が第一だ 落着け

欄外の記事

爪革の美しけれど春の泥（鈴鹿野風呂）

斉藤緑雨没（明治三七）石川啄木没（明治四五）田山花袋没（昭和五）

四月十四日 (日) 雨後曇 暖

雨だ 嬉しいのか 悲しいのか わからない、日曜日で出勤日だよ だからハイキングはおじやんだ 九時五分に社に着く これは後れたと行って行くと誰もいない 十時頃鶴田さんお出になるも岡崎さんがこられない

十一時近く岡崎さんこられるもやはり五十円合わずおゝ不愉快だ 会計係の方から出るものは皆溜息ばかりだ 遂にわからない

僕は買入先 整理 小切手を打つ

支払の準備は出来た 机を二つ 今度の部屋にかたす、三時 かへる

理髪店に行く 四十銭 活動は行かうと思って出ると 途中 誰々君のお母さんに合っ
て行く事をやめる、一諸にお客さんこられる、家は手紙を書く 十時ネル

欄外の記事

短気は損気（古諺）

高杉晋作没（慶応三）元老・大審院二院設置（明治八）

四月十五日（月） 晴 暖

起床六時半、何時もの通り、

十五分の省線で行く臨港三十二分の遅れる 四十分のに乗って行く電車の中で坂倉さん
に會ふ坂倉さんは故郷に行き海軍の試験を受けに行かれて昨夜帰られた由 又 鶴田さん
にも會ふ 午前中 買入先支払 ——、

五時過ぎ 今度出来た新しい部屋に引っ越し、色々工夫して漸く席をきめる 七時迄 家
に八時帰る 夕食をなしラジオを聴いたりお茶を飲んだりして九時四十分 床に就く
永瀬君のお母さんや姉さん達は愛子姉さんが明日あたりお嫁に行かれるので非常に縫物に
忙しい

十時 寝る

欄外の記事

風呂の戸にせまりて谷の朧（おぼろ）かな（石鼎）

リンカーン没（1865）日清講和条約（明治二十八）

四月十六日（火）晴 暖

発信 三通 家に 相葉英信君 市橋栄治君

何時もと同じく七時十分前朝食をしたため七時の時報に時計を合せ 玄関にて靴を穿いて
ゐる時 愛子姉さんより「川井ちゃ元気で一生懸命やってね」「鶴見に居るから遊びに来な
さい」忘れられよこの言葉、よし一生懸命やるぞ、この言葉を聴いて何と答えてよいか、
胸がつまってしまって「はい」と一言であった 自分の意志の弱さに言を失うと思ふ事も
皆打ち消されてしまふのである、後は「行って参ります」の言葉で別れてしまった。
会社で 部屋が違ふので なんとなく 感じがよい 明るい為 非常によい

決算 買入先表 タイプに頼みうって出て来る 買入先支払 残業 七時
九時 風呂に行く 十時 ねる

欄外の記事

ペン皿のうすき埃や花曇 (風生)

259+107 佛小説家アナトールフランス生 (1844) 英伊協定 (昭和十三)

四月十七日 (水) 晴 暖

受信 二通 家より 市橋栄治君

暖たかいと言ふよりも暑くなって来たやうだ 朝などとても気持が良いよ、
六時半 おきて 七時五分 家を出る 会社に 今迄休んでおられた吉野さん御出になら
れ 原価係へ行かれる、

毎日の税の問題で何だかやかましい様だ 書直し買入先内訳表をなす、
買入先請求書を見せる

残業 七時迄

家に八時帰るお母さん 活動を見に行かれた 白木屋エノケンの漫才おもしろかった
お母さん九時半に帰ってこられるそれから お茶をのみお話などをして遂に十時になる
十一時半近くにネル

欄外に記事

谷杉の穂も日かげりて春の暮 (原田濱人)

徳川家康没 (元和二) 杉田玄白没 (文化十四) 自治制発布五十周年 (昭和十三)

四月十八日 (木) 晴 暖

受信 一通 相葉英信君

六時半おきて ——

会社の仕事は

一、 請求書の受理

一、 買入先内訳表の作成

一、 雑役

五時半より習字の講習金子君より紙を戴いて書し七時まで行ふ

八時家に帰る

飯、手紙、新聞 ラジオを聞いて九時床に就く 手紙をかく

十時半 ネル

欄外の記事

一を聞いて十を知れ（子貢）

257 + 109

紀貫之古今和歌集を撰す（寛平九）葛飾北斎没（嘉永二）陪審法公布（大正十二）

四月十九日（金） 雨後晴 暖

今日の残業は十時半迄

課長初め庶務 会計 原価の者 行ふ

決算期なので今晚は金子さん十時迄かかって試算表の作成をなす

終って紅茶を飲む

後、金庫問題あり、（岡崎君来て解決）十時半、吉川さんと岡崎さん達と三人で歸る 武蔵白石まで歩く

十一時十分家に着く、鍵閉まってゐた 隣のおじさんよんで戴く

飯を食べてネル

夜 遅く迄 起きてみて待って下された

常にこの御恩を忘れてはならない。

欄外の記事

寝返りて雨音とみに夜半の春（泊雲）

英詩人バイロン没（一八二四）阿片の喫煙を禁ず（明治元）

四月二十日（土） 曇 暖

一、 買入先 請求書 整理

久し振りにて残業せずに六時家に歸る、

皆んなと一緒に夕食をしてラジオを聞いて居ると洋服屋さん来てお茶をのんで行く

八時五十分 歸る 又話して十時床に就く、

正ちゃんまだ歸らず明日休みだからゆっくりして居るでせう

明日九時迄臨時出勤

工業学校グラウンドにて課対抗野球試合

欄外の記事

浅い川も深くわたれ（古諺）

255+111

徳川家光没（慶安四）ヒットラー生（一八八九）東京大阪間飛行郵便開始（大正十四）

四月二十一日 (日) 雨 暖

日曜出勤、
ゆっくり七時半に起きて、八時家を出る
九時より初める予定なるも、皆んなおそく初まるのは十時頃 雨の為野球とりやめ
皆んな歸る、
会計係全部（女を除く）出勤、外大沢さん課長さんで行ふ 昼に食事せず（食堂に飯なし）
仕事は僕は買入先 及び給料を手伝ふ
四時頃おわりて皆んなで倶楽部に行く
課長さん達はマージャンをやる 僕と金子君はゴヤレコードをかけたりに遊ぶ ソバ課
長さんに御馳走して戴く 九時歸る 九時半 家につく お話をしてネル 十時半

欄外の記事

竹の風ひねもすさわぐ春日かな（犀星）
賤ヶ岳の戦（天正十一）天一坊誅せらる（享保十四）湊川神社創建（明治元）

四月二十二日 (月) 晴 暖

昨日と打ってかわった天気
すっかり晴れて空には爆音勇ましし飛行機のとぶ姿日に映ず
七時 家を出る
買入先 請求書 記帳
残業 七時半迄 岡崎、坂倉、脇田さん達早く歸る 井上さんは七時かへる僕は七時半に
金子、山本両君はこのころ、給料計算にて立替証會わず
途中 臨港非常に混んでつぶされそうだった。八時半大森駅につく それから七分でとん
でかえる 夕食をしてラジオをきてネル 九時半

欄外の記事

山の春神々雲を白うしぬ（蛇笏）
独哲学者カント生（一七二四）倫敦海軍条約成る（昭和五）

四月二十三日 (火) 曇 寒

六時半 何時もの通りおきた、中は大した寒いとは寒じなかったが、朝食をして出かける
と外の非常に寒いのに驚いた
会社に仕事絵をして帰っても足の下の方がすらすらして寒くて冷たくなる程であった。

残業をなす

どんより 曇った空 陰気な日であった。

残業が終った頃はみんな話をしてみたその話が面白かったので復か肩たしなった

その後本人は西尾、嶋田、岡崎さん達が笑わせた、

終いに歸り、・・・大沢さん達が来ていたのでふざけていたので 一電車割れてしまった。

愉快だ次の電車で揃ってかへった

風呂に行く 十時ネル

欄外の記事

踏青や水に魚行き草に蝶（月訪斗）

英詩聖沙翁没（一六一六）吉田屋騒動（文久二）最初の外債募集（明治三）

四月二十四日（水）晴 暖

受信 一通 伊藤 俊重様

- 一、 六時半起床
- 一、 七時五分 出る
- 一、 五十分家（会社）に着く
- 一、 請求書 処理
- 一、 残業 給料袋を作る
- 一、 八時十分 家に歸る
- 一、 夕食をしながらラジオを聞く 九時迄きく
- 一、 二階に上ってみんなと話をして 九時四十分 ネル

先づ勉強 先づ勉強だ

先づ身体 先づ身体

欄外の記事

ぼけ開く山閑かなり砲火やむ（成田定之）

251+115 柴田勝家自刃（天正十一） 種痘法公布（明治三）モルトケ没（一八九一）

四月二十五日（木）晴 暖

受信 小包一ツ 手紙家より

今日は給料日

金三十三円七十五銭 収入

家よりレインコート送ってくれた
何だか頭がはっきりしない
習字あり 清書を出す
一日中、買入先 計算をなす
急いで給料を拂ふも後、会議室に移る
朝はよい天気であったが、夕方風が出て少し曇る
下宿料二十円支拂ふ
十時半 ネル

欄外の記事

波おぼろ巖おぼろたぶりーかな (東洋城)
近藤勇処刑(明治元) 僧侶の肉食妻帯蓄髪を許す(明治五) 土田杏村没(昭和九) 250+116

四月二十六日 (金) 晴 暖

受信 小包一個(靴) 手紙 一通

レインコートを颯爽と着て出かける

- 一、 買入先 計算 大方終る
- 一、 漢便預金 二十四 をなす
- 一、 小為替 五円 庶務の石川君に言って取組を頼む
- 一、 買入先 小切手を打つ
- 一、 振込依頼書の作成

残業 八時迄

吉川さんより箱根ハイキングに就いての注意あり

ハイキング費用 四円 支拂ふ

女 三人 行く由

欄外の記事

たたかひに君をおくりて春の夜の雨降るときはものおもふかな (田中輝子)
249+117 佛画家ドラクロア生(一七九九) 小説家ピュルンソン没(一九一〇)

四月二十七日 (土) 雨 暖

発信 家に 送金

何んだか曇って うす暗い空

まづ傘を持って家を出る シュウ雨しばしばふる あすのハイキングどうであらう
今日は非常にひまであった 仕事も大たい午前中に終わった

残業なしで早く歸る歩いて口を時ヶ〇まで来た時、かさを忘れたのを思い出し戻る。

六時半 かへる 車中石川君と一緒にであった

家の人が大変しんばいしてくれるので明日の箱根ハイキングも愉快地楽しく出かける思ふ

夜七時 靴の皮革油を買ひに出る、キャラメル二ツ買ふ 油 二十五銭 キャラメル十銭

九時半 ネル 明日は早いぞ

欄外の記事

何や彼と仕事のことにわづらふか朝起くるより夜いぬるまで（廣野三郎）

エマソン没（一八八二）民法公布（明治二九）東京帝国書画館開く（明治三十）248+118

四月二十八日 （日） 雨 寒

箱根行はおじゃんだ 雨だ 昨夜の用意も此無駄だ 一日 家の中にとじこもってゐる

夕方よりしこし晴れて青空が見えて来た

昼には家でノリヤキメンを食べて気分を出す

夜活動見に行かうと思つて白木屋に行くも一回見たオーケストラの少女なのでやめてぶら

ぶら歩いて八時近く家にかへる

市橋君の処に速達を出す

間に合ってくるかどうかの――

十時 ネル

欄外の記事

一見忽ち断定を下すべからず（リチャードソン）

247+119 名工左甚五郎没（寛永十）島津斉彬生（文化六）

四月二十九日 （月） 晴 暖

昨日とまるきり反対の天気

朝九時家を出る 上野に行く 市橋君こないの上野動物園を見る

ふらふらして九時五十分頃より二時半迄居る それから地下鉄で新橋まで行く

新橋で降りた〇けでまた省線 山手線で品川迄くる 品川にて慰霊に會ふ

大森にてぶらぶらして単行本を買つて歸つた

四時半過ぎであつた

五時半 夕食をして

ラジオを聞いて九時床につく

欄外の記事

春愁や暮れて出歩くそこらまで（洋一）

漢口大空中戦海軍機五十は敵八十機と交戦敵五十一機を撃墜（昭和十三）

四月三十日（火） 晴 暖

受信 一通 須田 昇君

今日は支払日である

何時もの支払と違って割合に忙しかった

箱根には五人行った由です 非常に面白かったとの事

鶴田さん外女の方も多摩川に言って来たそうである、帰りに興楽郡でドンチャンやった由で皆つかれて居った

鶴田さん 本店に行かれる 四時 歸られる

最早や、四月も終わりである

笹鳴るや 下枝くくるも今志ばし

欄外の記事

父吾へ書くまでに早くなれよ子の入学を妻云ひて来ぬ（石堂力）

245+121 源義経衣川館に死す（文治五）第二十二回衆議院議員総選挙（昭和十二）